



UNITE FOR GOOD

国際ロータリー第2820地区 2025-2026年度

地区研修・協議会プログラム

国際ロータリー 2025 -2026 年度

会長 マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ

日 時：2025 年4月13日(日)

場 所：つくば国際会議場

ホスト：水海道ロータリークラブ

ガ バ ナ ー 大高 司郎

ガバナーエレクト 瀬戸 隆海

地区ラーニングFT 大久保 博之

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2820

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2820

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2820

***UNITE
FOR
GOOD***





ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を推奨し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

ロータリアンが生活や仕事の場面で常に覚えておくべき4つの問い、それが「四つのテスト」です。政治や宗教に関係なく、すべての人びとの倫理的指針となるこのテストは、100カ国以上に翻訳されています。

言行はこれに照らしてから

- 1. 真実かどうか
- 2. みんなに公平か
- 3. 好意と友情を深めるか
- 4. みんなのためになるかどうか



R.I. 会長メッセージ

2025-2026年度
国際ロータリー会長

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ

(サント・アンドレ・ロータリークラブ: ブラジル)

敬愛なるガバナーとロータリーリーダーである皆さま、おはようございます。

昨年はこちらに、2024-25年度ガバナーにお集まりいただきました。その際、私は国際ロータリーの会長ノミニーとして、会員増強を私たちの組織の最優先事項であり、最も価値ある資産であり、最大の課題であると強調しました。

そして今日、会長エレクトとして皆さんの前に立っている今、ロータリーの未来を確かなものにするには、組織全体で会員増強に力を注ぐことが不可欠であると、これまで以上に確信しています。

ロータリーの最大の財産は、その歴史でも、プロジェクトでも、比類のない世界的広がりでもありません。それは会員です。会員は、地球上で最も有能なボランティアのチームです。私は、アトランタ国際大会で、ポリオ根絶のパートナー団体を代表する人物が、ロータリー会員の並外れた献身を称賛したのを聞いて、このことを学びました。外部団体からそう認められたことで、ロータリーが世界に与えることのできる最大の贈り物は、その会員であるという私の理解が深まりました。

本日は、会員増強と活性化に向けたロードマップについてお話ししたいと思います。このロードマップは、革新、継続性、パートナーシップという、不可欠な三つの柱に基づいています。これらの原則は単なる戦略ではありません。ロータリーを活性化し、新たな声や考え方を取り入れ、世界中の地域社会への奉仕を強化するための行動の呼びかけです。

世界は、劇的なペースで変化しています。テクノロジー、社会の期待、経済状況は常に変化しており、ロータリーもそれに合わせて進化しなければなりません。トーマジ・ディ・ランペドゥーサが『山猫』で書いたように、「すべてを同じままに保つには、すべてを変えなければならない」のです。

革新こそが、変化するこの世界に私たちが適応する手段なのです。若い会員を迎え入れるだけでなく、目的やつながりを求める年配の方々にも参加していただく必要があります。

68歳の私は、仲間たちのコミュニティを見つけることがどれほど充実したものであるかを、身をもって知っています。

私の所属クラブであるサント・アンドレ・ロータリークラブは、150人の会員を擁する活気と伝統のあるクラブです。妻のデニースは、衛星クラブの結成に助力し、50人近い素晴らしい女性たちが自分らしくリーダーシップを発揮できる場を創り出しました。

衛星クラブ、分野特化型クラブ、法人クラブ、パスポートクラブなどは、多様な人びとを惹きつけるために必要な柔軟性の例です。これらのモデルがどこでも通用するわけではありませんが、従来の枠組みにとらわれずに未来のロータリアンに働きかける機会をもたらします。将来のロータリー会員は必ずどこかにいます。私たちは、そこに赴いて彼らを見つける必要があります。



この18カ月間で地球を6周以上した旅の中で、最も健全な地区には、一貫し、団結したリーダーシップという重要な特徴があることに気づきました。ガバナーが前任者の努力を基盤とし、プログラムや戦略が毎年途切れることなく継続されるようにすることで、地区は発展します。一方、トップにおける不和は、時限爆弾のようなものであり、これが会員数の減少という結果を引き起こすことがよくあります。

この旅から得た感動的な瞬間をいくつかご紹介しましょう。ナイジェリアの第9141地区では、サービスの行き届いていない地域に井戸を建設したり、学校に椅子を寄贈したりすることの素晴らしいインパクトを目の当たりにしました。パキスタンでは、2022年の壊滅的な洪水の被災者が、ただ生き延びるだけの生活からより良い未来へと移行できるよう、ロータリーが支援しているスマートビレッジを訪れました。

インドのムンバイでは、ロータリーの補助金で先天性心臓病の治療を受けている子どもたちに会いました。また、別の地域では、緩和ケア病院の外に、がん検診、歯科治療、眼科検診を支援するロータリー財団のロゴが入った救急車が並んでいるのを目にしました。

インドネシアのランブンで、デニースと私は、700世帯の経済が小規模ながら変化し、米を生産する農家の収入が増えるのを目にする機会に恵まれました。

継続性とは、画一性ではなく、連携です。地区リーダー同士が連携し、自分の“ガバナー年度”を越えてロータリーを思い描けば、長期的な成功の土台が築かれます。ロータリーはすでに、毎年リーダーが交代するという独特な課題に直面しています。これ以上、私たちの努力を分散させて、状況をさらに難しくしてはなりません。むしろ、未来のリーダーがさらに発展させていけるような協力の遺産を築いていきましょう。

ロータリーがポリオ根絶活動で培ってきた歴史は、私たちに貴重な教訓を与えてくれます。単独でも大きな成果を上げることができますが、力を合わせれば、世界を変えることができるのです。ゲイツ財団、WHO、UNICEFといった団体とのパートナーシップは、230億ドルを投じて40年以上取り組んできたポリオ根絶活動において極めて重要な役割を果たしました。ロータリーが単独でこれほどまでに大きな進展を遂げることはできなかったでしょう。

それならば、会員増強にもこの教訓を活かすべきではないでしょうか。ビジネス団体、専門職団体、教育機関などと協力することで、ロータリーは職業や考え方の多様性を取り入れながら、質の高い会員を引き付けることができます。このようなパートナーシップは、「量か質か」という誤った二者択一を排除します。奉仕と参画というロータリーの価値観を共有する職業人に働きかけることで、世界でよいことをするロータリーの力を拡大できます。

最終的には、私たちのすべての成果、プロジェクト、パートナーシップは会員にかかっています。会員増強とは単に数字を増やすことではなく、集合体としての私たちの力をさらに高め、ロータリーの使命を継承していくことです。

まず、誰も永遠には生きられないと認識しなければなりません。クラブの高齢化に対する唯一の策は、絶えず新会員を迎え入れることです。

第二に、会員数が増えれば奉仕の力も広がります。会員が増えるということは、奉仕に参加する人が増え、地域社会にさらに多くのリソースを投入できることを意味します。

第三に、後継者育成計画が重要です。クラブは成長するか、衰退するかのいずれかであり、安定した会員基盤というものはありません。



私たちは、会員の勧誘と維持を、ロータリー会員の世代から世代へと受け継がれる中核的価値観としなければなりません。そうすることで、ロータリーが今後数十年にわたって活気とインパクトを維持できるのです。

ロータリー会員は行動人です。私たちは変化が起こるのを待つのではなく、自ら変化を起こします。

行動人とは、何をするのでしょうか。私たちは、よいことのために手を取りあいます。

これが、2025-26年度の会長メッセージです:「よいことのために手を取りあおう」

分断されがちな世界において、ロータリーは団結と希望の光となります。私たちのプロジェクトは、人種、ジェンダー、性別、思想、経済的背景の異なる人びとを結びつけ、世界でよいことをするという共通の目的で私たちを一つにします。ロータリーは、より良い人間となり、人びとに奉仕し、末長いインパクトをもたらすよう、私たちを鼓舞します。

本日この会場を後にする際には、地区でロータリーを成長させるための最善の戦略を学ぶことに焦点を当ててください。ロータリーは、この協議会に多大な時間と資金を投じてきましたが、それはスピーチや派手な演出のためではなく、皆さんが効果的にリーダーシップを発揮するための手段を身につけていただくためです。この投資から得られる見返りは、金銭で測られるものではなく、新会員の入会数、革新的なクラブの創設、奉仕を通じて人々の人生に変化をもたらすことによって測られるでしょう。

そして、この使命を遂行するにあたり、ロータリーの最大の喜びの一つ、すなわち、世界中に友人をつくり、楽しむことを忘れないでください。

成長、奉仕、つながりの旅路を共に歩んでいきましょう。よいことのために手を取りあえるロータリーを築き、すべての人にとってより明るい未来を実現させましょう。



地区研修・協議会(DTA)によせて

2024-2025年度

国際ロータリー第2820地区

ガバナー **大高 司郎**(高萩RC)

皆さま、本日はお忙しい中、地区研修・協議会にご参加いただき、誠にありがとうございます。
本日の協議会をもって、2025-26年の瀬戸年度が本格的にスタートします。明日からは、各クラブリーダーの皆さまが、ここで得た学びをクラブに持ち帰り、次年度の運営に備えていくこととなります。

「2025-26年度は、すでに始まっています」

これはPETS(会長エレクト研修セミナー)でもお伝えしましたが、会長・幹事をはじめとする各委員長は任期は1年であり、その成功は準備の早さにかかっています。ロータリー年度は7月に始まりますが、その時点で動き出すのでは遅く、7月にはすでに力強くスタートダッシュを切ることが求められます。

そのためには、クラブのビジョンを明確に定め、目標を共有し、会員一人ひとりが自分の役割を理解することで、スムーズな運営が可能となります。加えて、会員同士の信頼関係の構築や積極的な情報共有、次世代リーダーの育成も重要な要素です。次年度のマリオ・セザールRI会長のメッセージは、「よいことのために手を取りあおう(UNITE FOR GOOD)」です。また、マリオ会長は「ロータリーの最大の財産は会員である」とも述べています。

そして、今ロータリーに最も必要なものは、第1にMembership(会員増強)、第2にMembership、第3にMembershipであると強く訴えています。会員増強はロータリーの未来を支える最重要課題です。新たな仲間を迎え入れることは、奉仕の力を拡大し、クラブの活性化にもつながります。クラブの発展には、会員の維持・増強が不可欠であり、魅力あるクラブづくりのために、皆さまの力を結集してまいりましょう。

会員一人ひとりが誇りを持ち、やりがいを感じられるクラブこそが、多くの人を惹きつけ、持続可能な成長を遂げることができます。そのためには、新しい会員がスムーズにクラブに溶け込み、やりがいを持てるよう、メンター制度の活用や会員同士の対話の機会を増やす工夫も必要です。

さらに、地域社会との連携を深めることも、ロータリーの影響力を高める鍵となります。地域の課題を理解し、それに応じた奉仕活動を展開することで、ロータリーの存在意義がより明確になり、多くの人に共感を呼ぶことができます。本日の研修・協議会での学びや交流を生かし、次年度の準備を着実に進めていただけることを願っています。ともに手を取り合い、「よいこと」の実現に向けて邁進しましょう。



地区研修・協議会によせて

2025-2026年度

地区ラーニングファシリテーター

大久保 博之（水戸RC）

25～26年度地区ラーニングファシリテーターを拝命しました水戸 RC の大久保博之でございます。

本日は各クラブを支援する地区役員・委員・クラブ会長・幹事・委員長の皆様が一堂に会しロータリーを学び、ロータリー運動をさらに前進させる機会となりますことをこころよりお祈り申し上げます。

瀬戸ガバナーエレクトは皆様ご存知の通り満を持して水海道 RC が送り出したロータリー通であり国際事情通でもあります。

今までの Training（講演・講義）は近年 Learning（参加・自己啓発）型の学びの方法に変わりがつたつあります。知識を学ぶことから自ら問いを發し、自ら求めて学ぶスタイルの方が多くの気づきがあり、効果的な学習スタイルでありと言います。より記憶に残るものであると思います。

急激に変化している時代と時代の価値観にキャッチアップし、いや、時代に先駆ける価値ある運動を創造するために、まさに今、瀬戸ガバナーエレクトに続いて参りましょう。



地区研修・協議会に寄せて

2024-25年度

国際ロータリー第2820地区

ガバナーエレクト **瀬戸 隆海**(水海道RC)

本日はご多忙のところ、次期クラブ会長をはじめとする関係各位の皆様にご参加をいただき、ありがとうございます。今回の地区研修・協議会につきましては、大高ガバナー、大久保ラーニングファシリテーター、パストガバナーの皆様方の御指導を賜りながら、準備を進めてまいりました。

地区研修・協議会(DTA : District Training Assembly)とはクラブの時期指導的立場にある方々が、次年度に備え、RI会長メッセージおよび協調事項、それぞれの役割と責務を学び目標設定や事例研究を行うものであります。更には、2025-26年度RI会長メッセージ、RI会長協調事項、地区目標や指針を次期ガバナーから参加者の皆様方に報告し、諸計画に向けて心をつなげ、大きな目的でもあります。

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴRI会長エレクトは10日の開会本会議の席で2025-26年度RI会長メッセージとして「よいことのために手をとりあおう」と発表されました。以前からの情報でテーマは廃止する、代わってメッセージを出すと同っておりました。今回のメッセージの発表があった時、テーマとメッセージはどう違うのかという疑問がでました。伺ってみると、テーマはその年度の会長が決めるものであり、メッセージは戦略委員会と公共イメージと会長エレクトが協議し決めるものだそうです。つまり、テーマとメッセージと意味合いをみると内容の重さはメッセージが重いのであります。つまり、ロータリーが長期的戦略に向かって方向を示唆し、継続的なアドバイスを我々に示していると理解します。何はともあれ、私はとても明快であり、ロータリーとしての奉仕の理念を強調していると感じました。

メッセージが発表された瞬間、大きな歓声で会場が沸き立ちました。英文である「UNITE FOR GOOD」を直訳すると、「善のために団結する」ではないでしょうか。正しく我々地区内ロータリーが一致団結し、奉仕を推し進めていくのがこの年度の行動指針でないでしょうか。

さて、マリオRI会長エレクトは、ロータリーの最大の財産は会員であり、個々の会員が協力することで世界を変える力があると述べられました。また、成長のための「不可欠な3つの柱」として、革新、継続性、パートナーシップを挙げ、変化する世界に適応し続ける事の重要性を強調しています。このメッセージは、ロータリー会員が団結し、共に善いことを行うことで、地域社会や世界全体にポジティブな変化を与えてくれるということを示唆しているのでしょう。

ロータリーを変えるためには、ロータリアンが変わらなくてはなりません。ロータリアンとしての理想と責務を外さない限り、自由なロータリー、快活なロータリー、そして楽しいロータリーを共に推し進めてまいりましょう。

最後にそれぞれのクラブが躍進していただけることを祈念し、御礼のご挨拶に代えさせていただきます。



2025-26年度国際ロータリー

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ会長メッセージ

よいことのために手を取りあおう

(UNITE FOR GOOD)



2025-26年度の国際ロータリーとロータリー財団の年次目標

ロータリー行動計画

私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って、行動する世界を目指しています。

より意義あるつながりを育み、奉仕を通じてより持続可能な変化をもたらすためにロータリーを導くのが、私たちの戦略計画である「ロータリー行動計画」です。

この四つの優先事項を指針とすることで、より健全なクラブをつくり、すべての人が積極的に参加できる体験を提供し、行動を通じて持続的な変化を生むために人々を結びつけるという国際ロータリーとロータリー財団のビジョンを実行することとなります。

優先事項1 「より大きなインパクトをもたらす」

- ・ポリオを根絶し、残された遺産を活用する。
- ・ロータリーのプログラムおよびロータリーが提供する体験に焦点を当てる。
- ・活動成果を挙げ、それを測る能力を高める。

優先事項2 「参加者の基盤を広げる」

- ・会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様化する。
- ・参加者がロータリーを体験する新しい方法を作り出す。
- ・クラブの柔軟性とアピール力を高める。
- ・インパクトとブランドに対する理解を築く。

優先事項3 「参加者の積極的なかわりを促す」

- ・クラブが会員の積極的参加を促せるよう支援する。
- ・個々の参加者をよりよく理解し、サポートする。
- ・個人的/職業的なつながりを築く新たな機会を提供する。
- ・リーダーシップ育成とスキル開発のための学びの機会を提供する。

優先事項4 「適応力を高める」

- ・研究と革新、およびリスクをいとわない文化を築く。
- ・ガバナンス、構造、プロセスを合理化する。
- ・意思決定におけるより多様な考え方を育む。



地区行動指針

時は今 ところ足元 そのことに 打ち込む命 永久の御命 (椎尾弁匡 御作)

【解説】

今、何が大切かと考えたとき、結果としてこの一瞬をできる限り努力をする事に尽きるのではないのでしょうか。人は、ついつい先を見て焦ってしまいます。先走ってやらなくてもいいことをして失敗してしまいがちです。でも足もとを確実に固め、ゆっくりといいですから「生ききる」ことです。その打ち込む姿勢が「永遠の命」に帰結していきます。

【地区数値目標】

①会員数(ロータリアン・ローターアクター) →『ロータリーの財産』

・地区目標 2,000名

ロータリークラブ(含む衛星クラブ会員) 純増 クラブ会員数×8%

ローターアクトクラブ 純増 1名

・特化型の衛星クラブ創立の促進

②ロータリー財団寄付

・年次基金寄付 150ドル/人

・ポリオプラス基金 30ドル/人

・恒久基金(ベネファクター) 各クラブ1名以上

・ポリオ・プラス・ソサエティ(PPS) 現PPS会員+クラブ1名以上

・ポール・ハリス・ソサエティ(PHS) 地区100名以上維持

③米山記念奨学会寄付

・会員一人当たり25,000円(普通寄付5,000円：特別寄付20,000円)

④My ROTARYの登録推進と活用促進

・会員登録 全会員の85%以上

ロータリーの情報源でもあり各自のロータリアンとしての資質向上



【地区行動指針】

①ポリオ根絶のためのプロジェクト

ポリオ根絶はロータリーとしての最優先事項です。ポリオ根絶まであと少しと言いながら、昨年はパキスタンで感染者が多発いたしました。また、ガザ地区でもワクチン由来の患者が流行しました。WHOはワクチン投与を強く訴え、ガザ地区においてポリオワクチン投与のために一時停戦にするほど、世界はポリオ根絶に対して重きを置いています。

地区ではポリオ根絶キャンペーンを世界ポリオデーに合わせ、実行委員会を立ち上げ、地区全体事業としてイベントを実行いたします。

→財団委員会を中心に、地区内各奉仕委員会・米山奨学生を対象、全クラブ。

②ウクライナ支援事業のためにICC(国際共同委員会)設立に参画

当地区はウクライナ紛争が勃発した時から、早急に支援活動を行ってきました。そして、日本国内の多くの地区においても支援を行っています。しかしながら夫々の地区で支援を行うには限度があります。ウクライナは一国で1地区であります。支援を受ける地区と支援する側の地区と協定を交わしICCを立ち上げ、効果的な支援をするよう推し進めていきます。日本国内ではICCを立ち上げたことはありません。日本は戦後80周年という年に、ウクライナ復興のためのICCを立ち上げることは、とても重要な事ではないでしょうか。平和構築のためにご協力をお願いいたします。

さらに、ウクライナ復興のための義援金をお願いいたします。

→国際奉仕委員会

③Diversity(多様性)、Equity(公平性)、Inclusion(インクルージョン)の促進

多様性：全てにおいて門戸を開放する

公平性：誰もが公平で大切にされる

インクルージョン：多様性を受け入れ、互いに認め合い、みんなが活躍できる

『四つのテスト』の実施

→クラブ奉仕委員会

④公共イメージの向上

会員増強の最大の手段として、ロータリーのイメージ向上があるのではないのでしょうか。

イメージアップの手段としては、様々な媒体はありますが、ロータリーそのものを我々が楽しまなければ、外部の人には伝わらないと思います。

国際協議会において「ロータリー・ブランド」というテーマで話し合われました。いろいろな意見が出されましたが、今一度クラブで、委員会で意見交換していただくことで、公共イメージアップの手段が見えてくると思います。



⑤会員維持率の向上と増強

マリオRI会長は、ロータリーの財産はクラブであり会員であると言っております。しかしながら現時点においては、会員減少は否めないものであります。老朽化したクラブは衰退の岐路に立たされるのであります。唯一復活する手立ては、新しい会員、そして若い世代の会員を増やすのみであります。クラブの次の世代への移行を推し進めるリーダーが必要であります。老朽化したクラブが、それを受け入れないならば新しいクラブを作るべきです。

近年のクラブの形態としては、サテライトクラブ、原因に基づくクラブ、企業クラブ、パスポートクラブ等があります。所謂、特化したクラブであります。特化した衛星クラブも有りでしょう。是非とも、新しい仲間を増やしましょう。

⑥ローターアクトクラブの活性化

将来ロータリアンになるようなローターアクターへの投資であると踏まえ、我々はローターアクトと共に学び、ともに活動することが大切であります。そのためには、多くのメンバーを発掘していくのもロータリークラブとして支援していかなくてはなりません。

⑦青少年育成事業の推進

未来を担うリーダーの育成に努めましょう。インターアクト、RYLA、青少年交換への支援及び協力を強化しましょう。

⑧RLIへの積極的参加

RLIはロータリーにおける最大の指導力育成プログラムです。一人でもロータリーの活動に理解を深め、活力あるクラブ創生に力を出せるよう参加推進をお願いいたします。

⑨メイクアップの奨励

クラブ例会出席は会員としての義務ですが、メイクアップは諸事情により出席が叶わないための手段ですが、時には他クラブの情報、会員との交流、そして気付きがあります。自クラブだけでなく、積極的に他クラブに出向いてみましょう。

⑩My ROTARYの活用推進及び『ロータリーの友』の積極的な購読

ロータリーの情報がすべて網羅されております。是非とも、ロータリーの情報源の活用をお願いいたします。

⑪クラブ優秀賞への挑戦

クラブ優秀賞を取ることが目的ではなく、自分たちが目標に向かってどれだけ躍進したかという評価です。それぞれのクラブ活性のために、トライしましょう。

→ガバナー補佐



⑫国際大会への参加

今年度の国際大会は、2026年6月13日～17日に台北(台湾)で行われます。多くの登録をお願いいたします。

⑬ロータリー希望の風奨学金支援の継続

東日本大震災により災害孤児になった青少年への教育支援をいたします。
一人1,000円の支援を任意でお願いいたします。



国際委員会は、2つ以上の国際地区または2つ以上の国の間の関係を促進し、さまざまな国の人々の間で親睦を深め、異文化理解を深め、異なる国のメンバー、クラブ、地区間の絆を強め、国境、大陸、海を越えたネットワークを確立します。

第一次世界大戦と第二次世界大戦後にヨーロッパを統一するために最初の国際委員会（ICC）が結成され、国境を越えた多地区活動の基礎が築かれました。

1950年にフランスとドイツの間で委員会の憲章が発効して以来、ヨーロッパおよび世界中でICCのネットワークが発展してきました。

すぐに、国際ロータリーセンターの2か国のロータリアン、クラブ、地区は、共通の活動に協力することによってのみ、コミュニケーションと相互理解の向上を通じて平和をさらに促進できることに気づきました。

国境を越えたクラブの姉妹提携を皮切りに、寛容と理解の精神のもと、ロータリアン間の国際的な交流が拡大しました。

現在、ロータリー世界全体で推定400のICC関係があり、異文化理解の拡大、国境を越えた友情の構築、国際奉仕を通じて地域社会を強化するパートナーシップの育成に役立っています。

ICC加盟各国の地方支部は、人道的プロジェクトの定義と実施、およびその長期的な持続可能性の確認に協力しています。



国際共同委員会 (ICC) の参加に向けて

2820 地区では、新井ガバナ一年度よりウクライナ支援活動を行っています。当地区以外でもウクライナ支援を行っています、それぞれ地区がばらばらに行っている支援活動の窓口を一つにして日本国内の地区が一丸となって支援した方が、よりよい支援につながるのではないかと提案がありました。

そのために国際共同委員会 (ICC) を締結して、国際ロータリーから認められた方がより効果的との結論に至りました。

国際共同委員会 (ICC) とは

国際共同委員会 (ICC) は、異文化間の理解を促進します。ICC は、2 カ国以上の国にあるロータリークラブや地区が平和の推進、親睦の促進、関係強化のために協力するネットワークです。

締結に当たっては、今回ウクライナの復興支援として平和の推進に特化した事業推進ということで、相手地区 (ウクライナ) と日本国内ロータリークラブの各地区と条約を結びます。この ICC は相手 (国) 地区と日本の地区の二地区があれば成立いたします。

- ①日本区内のロータリーは、ICC を締結することについては初めての事でありロータリー日本事務局でも経験はなく、全面的に協力をいただいております。しかしながら ICC は最近できたものではなく、古くは第一次世界大戦の時に国を跨ぐロータリーが ICC を締結し支援活動を行ったという歴史があります。現在 117 国の地区同士が、ICC を活用し平和推進、交流を進めております。
- ②ICC は、財団とは別組織であります。ですから、財団の縛りはありません。そして、財団と MOU を締結すれば財団の資金を使うことは可能です。
- ③締結に当たっては、地区内クラブの 3 分の 2 以上の賛同を得なければなりません。
- ④事務局については、2520 地区多賀城に設立される衛星クラブが担当することに予定されています。このクラブは、ウクライナ人が数名在籍し、更には語学やインターネット等に特化したクラブメンバーが在籍いたします。
- ⑤この ICC 条約を締結したからと言って、締結した地区は毎年支援をしなければいけないという強制力はありません。ですから、支援についてはその年の地区の方針で決定することが可能です。
- ⑥支援内容は締結相手地区ウクライナ地区と協議し決めていきます。



当地区としての取り組みスケジュール

三大セミナーにて、地区方針として説明。

7月のガバナー会の折に、賛同地区とウクライナ地区との懇談会。

第1回会長幹事会、又は地区大会にて決議を行う。

現在関心表明地区

2 5 1 0 地区	2 5 2 0 地区	2 5 3 0 地区	2 5 6 0 地区	2 5 7 0 地区
2 5 9 0 地区	2 6 1 0 地区	2 7 1 0 地区	2 7 7 0 地区	2 8 2 0 地区



地区研修・協議会のご挨拶

国際ロータリー第2820地区
地区研修・協議会実行委員長
染谷 秀雄(水海道RC)

本日は早朝より、大高司郎ガバナー、大久保博之ラーニングファシリテーターをはじめとしますパストガバナーの皆様、そして地区役員、次年度のクラブ役員の皆様、2025-2026年地区研修・協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。

瀬戸ガバナー年度に向けた三大セミナーも本日の地区研修・協議会をもって次年度の準備が整い、実質年度へ入ってまいります。本日ご出席いただいた皆様は各クラブの運営を担う理事・役員の方々です。今日の研修会では RI 会長協調事項、地区目標ならびに指針などを学んでいた、次年度のクラブ運営の方針に反映していただきたいと思います。

水海道ロータリークラブといたしましては、瀬戸ガバナー年度に向けて最善を尽くし、会員一同、一丸となって支えて参りますが、今日お集りいただいた皆様のご協力がなければ目標を達成することはできません。皆様には改めて、更なるご支援とご協力をお願いします。



歓迎のご挨拶

国際ロータリー第2820地区
ホストクラブ会長
五木田 裕一(水海道RC)

県内全 54 クラブからご出席いただきました会長エレクト、幹事、クラブリーダーの皆様、遠路お越しいただきまして心から歓迎のご挨拶と御礼を申し上げます。併せて、3 大セミナーのすべてに、多大なるご支援とご指導を賜りました、ガバナー大高司郎様、地区ラーニングファシリテーター大久保博之様、パストガバナーの皆様、改めて厚く御礼申し上げます。

瀬戸ガバナー年度に向けて、充実したラーニングの環境を整えることがホストクラブの使命および責務と認識し、クラブを挙げて実行委員会を立ち上げると同時に、第 7 分区会員各位のご支援を賜り準備して参りました。

しかしながら、何分多人数の会議となるため、会場移動や会議環境などにおいて経験不足の点多々ございます。不行き届きの点はロータリーの友情に免じてお許しいただきたく、お願い申し上げます。

水海道ロータリークラブといたしましては、11 月 15 日・16 日、地区大会を開催する予定であります。第 2820 地区全会員の深いご理解及び多大なるご協力を賜りたく存じます。甚だ簡単ではございますが、以上を持ちましてホストクラブ会長としての挨拶とさせていただきます。



講師紹介



公益財団法人結核予防会 理事長、代表理事
 名誉世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局長
 独立行政法人 地域医療機能推進機構 名誉理事長
 自治医科大学名誉教授
 日経・FT感染症会議 議長
 ローターリー・ポリオ根絶大使

尾 身 茂

講演テーマ 「ポリオ根絶-ロータリーへの感謝と期待-」

■職 歴

- 1967年 東京教育大学附属駒場高等学校(現在筑波大学附属駒場高等学校)在学中に
American Field Service (AFS) の交換留学生として、1年間アメリカに留学。
- 1978年 自治医科大学卒業(一期生)
- 1978-1987年 東京都立墨東病院に於いて多科ローテート臨床研修修了後、伊豆七島を中心に
地域医療に従事
- 1987-1989年 自治医科大学予防生態学教室助手
- 1990-1998年 WHO西太平洋地域事務局にて拡大予防接種課長、感染症対策部長などを歴任
(西太平洋地域の小児麻痺根絶対策などで陣頭指揮)
- 1999年 2月 第5代WHO西太平洋地域、地域事務局長
“(SARS:重症急性呼吸器症候群の制圧及び各加盟国の地域医療対策や結核対策等で陣頭指揮)”
- 2009年 5月 日本政府新型インフルエンザ対策本部専門家諮問委員会 委員長
- 2014年 4月-2022年3月 JCHO 理事長
- 2016年 6月 国際健康危機タスクフォースのメンバー<国連総長からの要請>
- 2020年 2月 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議 副座長
- 2020年 3月 新型インフルエンザ等対策有識者会議 基本的対処方針等諮問委員会 会長
- 2020年 7月 新型インフルエンザ等対策有識者会議 新型コロナウイルス感染症対策分科会 会長
- 2021年 4月 新型インフルエンザ等対策推進会議 議長
- 2021年 4月 新型インフルエンザ等対策推進会議 基本的対処方針分科会 分科会長
- 2021年 4月 新型インフルエンザ等対策推進会議 新型コロナウイルス感染症対策分科会 分科会長
- 2022年 4月 公益財団法人結核予防会 代表理事
JCHO名誉理事長
- 2022年 6月 公益財団法人結核予防会 理事長、代表理事 現職



■受賞等

- 2001年10月 “第37回 小島三郎記念文化賞 受賞
(WHO西太平洋地域からの小児麻痺根絶への貢献に対し授与)”
- 2009年 1月 “小児麻痺根絶特別貢献賞 受賞
(国際ロータリークラブより小児麻痺根絶への貢献に対し授与) その他”
- 2024年 4月 「科学ジャーナリスト賞2024」優秀賞
(『1100日間の葛藤 新型コロナ・パンデミック、専門家たちの記録』日経BP 2023)

■著書等

- ・『パンデミック (H1N1) 2009—我が国の対策の総括と今後の課題—』
公衆衛生 Vol. 74 (8) 医学書院 2010
- ・『医療の輪が世界を救う』（『医の未来』（2011 岩波新書・矢崎義雄編）第5章）
- ・『WHO をゆく』医学書院 2011
- ・『1100 日間の葛藤 新型コロナ・パンデミック、専門家たちの記録』日経 BP 2023

[illegible]



2025-2026 年度 国際ロータリー第 2820 地区 地区研修・協議会プログラム(DTA)

2025年4月13日(日)
会場 : つくば国際会議場
(敬称略)

8:30～ 9:00	受付登録			
9:00～ 9:40	開会本会議	司会		
	点 鐘	ガバナーエレクト	瀬 戸 隆 海	(水海道)
	開会の辞	実行委員長	染 谷 秀 雄	(水海道)
	国歌並びにロータリーソング斉唱(奉仕の理想)			
	歓迎のことば	ホストクラブ会長	五 木 田 裕 一	(水海道)
	地区役員紹介	ガバナーエレクト	瀬 戸 隆 海	(水海道)
	ガバナー挨拶	ガ バ ナ ー	大 高 司 郎	(高 萩)
	ガバナーノミニ紹介	ガ バ ナ ー	大 高 司 郎	(高 萩)
	ガバナーノミニ挨拶	ガバナーノミニ	藤 木 章 吉	(しもだて紫水)
	ガバナーノミニ・デジグネート紹介	ガバナー指名委員会委員長	中 村 澄 夫	(東海那珂)
	ガバナーノミニ・デジグネート挨拶	ガバナーノミニ・デジグネート	清 野 宏 之	(土 浦 南)
9:40～10:10	RI会長メッセージと地区方針の発表	ガバナーエレクト	瀬 戸 隆 海	(水海道)
10:10～10:20	趣旨説明	地区ラーニングファシリテーター	大 久 保 博 之	(水 戸)
10:20～10:40	危機管理について	地区ラーニング委員	新 井 和 雄	(下 館)
10:40～10:50	休 憩			
10:50～10:55	講師の紹介	ガバナーエレクト	瀬 戸 隆 海	(水海道)
10:55～11:55	基調講演	ポリオ根絶-ロータリーへの感謝と期待-	尾 身 茂	
11:55～12:00	質疑応答		尾 身 茂	
12:00～12:40	各分科会会場での昼食			
12:40～14:00	第1グループ	会長・幹事・地区幹事・ガバナー補佐 地区会計長・地区資金委員 財団監査委員・ロータリーの友委員・戦略委員・立法案委員		
	第2グループ	会員増強・クラブサポート 公共イメージ・ICT 委員会 広報雑誌委員会・クラブ管理運営委員会		
	第3グループ 奉仕プロジェクトリーグ	職業奉仕委員会 社会奉仕委員会 国際奉仕委員会		
	第4グループ	青少年委員会 ローターアクト委員会		
	第5グループ	ロータリー財団委員会		
	第6グループ	米山記念奨学会		
14:00～14:20	移動&休憩			
	本 会 議			
14:20～14:40	3-Year Targets	ガ バ ナ ー	大 高 司 郎	(高 萩)
14:40～14:50	挨 拶	地区幹事	青 木 正 弘	(水海道)
		地区資金委員	倉 持 功 典	(水海道)
14:50～15:00	総 評	ガ バ ナ ー	大 高 司 郎	(高 萩)
15:00～	閉会の辞	地区副幹事	古 矢 満	(水海道)
	ロータリーソング斉唱(我らの生業)			
	点 鐘	ガバナーエレクト	瀬 戸 隆 海	(水海道)



会場および分科会担当のご案内

<本会議場> Leo Esaki メインホール

<分科会会場>

グループ		カウンセラー	リーダー	会 場
第1グループ 会長・幹事 地区幹事・ガバナー補佐 地区会計長・地区資金委員 ロータリーの友・財団監査委員 戦略委員・立法案委員			瀬戸 隆海	大会議室101
第2グループ クラブ奉仕委員会 会員増強・クラブサポート 公共イメージ・ICT 広報・雑誌 クラブ管理運営委員会		大久保博之	井上 誠	大会議室102
第3グループ	職業奉仕委員会	高橋 賢吾	安 圭一	中会議室202
	社会奉仕委員会		黒木 雅宏	
	国際奉仕委員会		村上 義孝	
第4グループ	青少年奉仕委員会	池田 正純	宇留野秀一	小会議室304
	ローターアクト委員会	中村 澄夫	塚越 俊祐	
第5グループ ロータリー財団		新井 和雄	新井 和雄	小会議室405
第6グループ 米山記念奨学会		大高 司郎	神山 芳子	中会議室406



出席者名簿

2025年4月13日(日)
つくば国際会議場

	役 職	氏 名	所属クラブ
地区諮問委員	ガバナー(2024-2025年度)・米山記念奨学会担当カウンセラー	大 高 司 郎	高 萩
	地区ラーニングFT・クラブ奉仕担当カウンセラー	大 久 保 博 之	水 戸
	パストガバナー	塙 東 男	笠 間
	パストガバナー	吉 岡 昭 文	つ く ば 学 園
	パストガバナー	北 村 仁	水 海 道
	パストガバナー	片 岡 信 彦	土 浦 南
	パストガバナー	永 井 靖 彦	水 戸 東
	パストガバナー	萩 原 亢 雄	し も だ て 紫 水
	パストガバナー	佐 藤 衛	水 戸 南
	パストガバナー	井 上 壽 博	水 戸
	パストガバナー	廣 瀬 昭 雄	土 浦
	パストガバナー	山 崎 清 司	古 河 東
	パストガバナー	野 堀 喜 作	つ く ば 学 園
	パストガバナー	長 谷 川 國 雄	水 戸 南
	パストガバナー	白 戸 仲 久	古 河 中 央
	パストガバナー	保 延 輝 文	石 岡
	パストガバナー・奉仕プロジェクト担当カウンセラー	高 橋 賢 吾	水 戸 西
	パストガバナー・ローターアクト担当カウンセラー	中 村 澄 夫	東 海 那 珂
	パストガバナー・青少年奉仕担当カウンセラー	池 田 正 純	牛 久
	パストガバナー	新 井 和 雄	下 館
	パストガバナー・ロータリー財団担当カウンセラー・財団総括委員長	大 野 治 夫	つ く ば 学 園
ガバナー補佐	第1分区ガバナー補佐	小 森 勇 一	高 萩
	第2分区ガバナー補佐	野 内 厚 志	大 子
	第3分区ガバナー補佐	金 澤 卓 也	水 戸 西
	第4分区ガバナー補佐	塚 田 晴 夫	古 河
	第5分区ガバナー補佐	野 寺 孝	筑 西 き ぬ
	第6分区ガバナー補佐	大 堀 健 二	つ く ば 学 園
	第7分区ガバナー補佐	中 村 康 博	牛 久
	第8分区ガバナー補佐	内 野 芳 男	鹿 島 中 央
地区役員	ガバナーエレクト(2024-2025年度)	瀬 戸 隆 海	水 海 道
	ガバナーノミニー(2024-2025年度)	藤 木 章 吉	し も だ て 紫 水
	ガバナーノミニー・デジグネート(2024-2025年度)	清 野 宏 之	土 浦 南
	地区幹事	青 木 正 弘	水 海 道
	地区幹事	鷺 谷 一 彦	し も だ て 紫 水
	地区幹事	大 河 原 浩	高 萩
	地区会計長	倉 持 功 典	水 海 道
	地区資金委員	小 倉 重 則	し も だ て 紫 水
	地区資金委員	石 君 平	高 萩
	ロータリーの友地区代表委員	北 村 英 明	水 海 道
	ロータリーの友委員	糸 川 秀 樹	し も だ て 紫 水
	財団監査委員	増 山 英 和	水 戸
	財団監査委員	小 野 智 久	日 立
	RLI委員長	桒 原 智 恵 子	水 戸 西
	地区戦略計画委員	柿 沼 利 明	古 河 東
	地区戦略計画委員	長 野 久 嗣	水 戸
	地区立法案検討委員会委員	土 田 次 郎	古 河 中 央
	地区立法案検討委員会委員	片 岡 宗 厳	水 戸
	地区立法案検討委員会委員	謝 佳	茨 城 ロ ー タ リ ー E
クホラスト	実行委員長	染 谷 秀 雄	水 海 道
	ホストクラブ会長	五 木 田 裕 一	水 海 道
	ホストクラブ幹事	大 澤 清	水 海 道



ク ラ ブ 奉 仕		総括委員長：井 上 誠（下妻）		
会 員 増 強		○熊木善一（古河）	片岡宗巖（水戸）	新井 誠（しもだて紫水）
		篠原純一（境）	杉山吉彦（下館さくら衛星）	リュウキンガー（下妻さぬま湖畔衛星）
		山田広美（下妻さぬま湖畔衛星）		
ク ラ ブ サ ポ ー ト		○鈴木敏雄（古河）	和泉好一（土浦南）	緒方惟文（水戸東）
公共イメージ・ICT 推進		○林 正太郎（水戸）	滝 徳宗（高萩）	松野祐介（水戸さくら）
		山崎哲男（水海道）	富岡致知（下妻）	
職 業 奉 仕		総括委員長：安 圭 一（水戸）		
		中村 潤（古河中央）	征矢 亘（日立）	片桐武美（守谷）
		荒野吉男（鉾田）		
社 会 奉 仕		総括委員長：黒 木 雅 宏（水戸西）		
研 究 会 担 当		小野智久（日立）		
地 区 補 助 金 担 当		根本ひろ美（水戸東）	川島紀文（牛久）	
奉 仕 事 業 担 当		關本淳一（土浦）		
国 際 奉 仕		総括委員長：村 上 義 孝（つくば学園）		
WCS・グローバル補助金担当		松本幸子（古河東）		
共同国際交流	フィリピン担当	柴山博光（友部）		
	タイ担当	録田幸裕（水戸南）		
	ネパール担当	中島賢一（土浦）		
青 少 年 奉 仕		総括委員長：宇 留 野 秀 一（水戸南）		
イ ン タ ー ア ク ト		○柴沼博之（土浦南）	石井秀明（東海那珂）	塙 主税（水戸西）
		山西 裕（水戸）	野口 均（しもだて紫水）	菅原光雄（日立港）
青 少 年 並 び に ラ イ ラ		○渡部俊介（石岡 8 7）	鈴木淑登（高萩）	広瀬貴之（つくば学園）
		石塚 徹（水海道）		
青 少 年 交 換		○軽部守彦（下妻）	飯泉智弥（つくば学園）	中庭浩美（水戸南）
		藤木章吉（しもだて紫水）		
ロ ー タ ー ア ク ト		総括委員長：塚 越 俊 祐（つくば学園）		
		有金重幸（日立中央）	横須賀 靖（水戸）	楠 英夫（土浦南）
		皆葉真治（つくば学園）	飯田大樹（古河中央）	杉山吉彦（下館さくら衛星）
		水村成也（土浦南 RAC）		
ロ ー タ リ ー 財 団		総括委員長：大 野 治 夫（つくば学園）		
ポ リ オ プ ラ ス		○関 康彦（水戸）	倉持悦子（しもだて紫水）	木村英博（つくば学園）
		鐵屋竜朗（つくばシティ）		
資 金 管 理・推 進		○秋葉良孝（水戸）	八木健二（日立）	瀬戸口 進（つくば学園）
補 助 金 担 当		○菊池泰正（土浦）		
地 区 補 助 金 担 当 申 請 申請補		○椿 眞里（北茨城）		
		清藤 豊（水戸東）		
		池田一郎（つくば学園）		
グ ローバル補助金担当 人道支援担当 奨学金・学友担当 V T T 担 当		○尊田京子（つくばサンライズ）		
		中野 勝（つくば学園）		
		田上悟史（水戸西）		
		岡村太郎（水戸南）		
ロータリー平和フェローシップ		○木村英博（つくば学園）		
ロータリーカード推進		○白岩大樹（牛久）		
米 山 記 念 奨 学 会		総括委員長：神 山 芳 子（下館）		
米 山 寄 付 増 進		○草野朋子（常陸太田）	江田治雄（下妻）	斉藤百合子（古河）
米 山 学 友		○岩田光造（水戸東）	張 朔源（茨城ロータリー E）	高野和彦（土浦南）
米 山 選 考		○佐谷道造（古河東）	藤澤昭彦（土浦）	中山眞矢（水戸西）
		前田成子（玉造）		



各クラブ出席者名簿

分区	クラブ名	会 長	幹 事	会員増強委員長	クラブ管理運営委員長
1 分 区	日 立	戸 来 徹	皆 川 康 博	小 野 崎 久 雅	原 田 実 能
	日 立 南	佐 藤 信 彦	千 葉 隆 一	鹿 志 村 高 道	小 野 瀬 裕
	高 萩	平 野 浩 司	秋 山 順 弘	滝 徳 宗	大 高 司 郎
	北 茨 城	小 宅 和 彦	蛭 田 豊	村 山 潤 一	瀧 慶 治
	日 立 港	勝 山 起 一	五 未 美 奈	鈴 木 稔	古 川 英 希
	日 立 北	安 藤 雅 樹	高 木 龍 一	鈴 木 國 友	勝 間 田 侑 啓
2 分 区	日 立 中 央	小 澤 仁 康	澤 島 英 樹	佐 藤 利 和	相 馬 志 乃
	那 珂 湊			遊 座 文 朗	
	常 陸 太 田	成 井 小 太 郎	小 祝 年 織	大 谷 昌 吉	澤 島 栄 寿 夫
	大 子	齋 藤 靖 弘	福 田 智 昭		大 森 勝 夫
	大 洗	加 部 東 孝 浩	小 沼 洋 道	伊 藤 雅 彦	土 子 吉 久
	勝 田	小 橋 川 祥	大 津 宣 明	小 松 満	清 水 利 春
3 分 区	東 海 那 珂	猪 股 真 純	鶴 田 哲 男	大 越 正 彦	目 黒 伸 也
	ひ た ち な か	浅 利 英 道	安 幹 雄	小 林 英 雄	鶴 田 竜 一
	水 戸	成 田 浩 明	荒 川 繁 美	荻 原 武	二 川 泰 久
	笠 間	永 田 康 弘	大 枝 輝 生	松 江 孟	篠 崎 実 鈴
	水 戸 西	鯨 岡 則 雄	小 林 裕 明	星 野 幸 子	星 野 真 昌
	水 戸 南	石 井 浩 一	川 上 英 則	島 根 昌 明	米 田 英 雄
4 分 区	友 部	遠 藤 彰	和 田 隆 志	菅 谷 和 徳	内 桶 克 之
	水 戸 東	磯 野 敦 義	飯 島 広 文	青 木 健 一	中 村 光 宏
	水 戸 さ く ら	和 田 公 一 郎	井 坂 純	豊 田 一 雄	笹 沼 和 之
	水 戸 好 文	友 田 み わ	河 野 秀 幸	伊 藤 道 子	石 井 慎 子
	茨 城 R E	徐 佳 鋭	張 朔 源		
	古 河	宮 内 則 雄	熊 木 善 一	秋 葉 和 敬	森 田 一 雄
5 分 区	境	櫻 井 幹 也	久 松 伸 一	斉 藤 哲 生	
	岩 井	上 坂 理 一	平 林 幸 恵	張 替 貞 夫	染 谷 勇
	古 河 東	福 田 優 子	大 谷 祥 寛	古 谷 由 紀 子 (代)	松 本 幸 子 (代)
	古 河 中 央	矢 澤 啓 次	鈴 木 日 出 夫	中 村 康 彦	高 津 戸 保 博
	下 館	堀 江 勤	塚 田 砂 与	潮 田 武 彦	新 井 和 雄
	結 城	齋 藤 章	富 田 昌 宏	清 本 正 治	松 本 廣 久
6 分 区	真 壁	石 田 吉 治	白 田 唯 雄	山 口 常 男	木 口 光 弘
	下 妻	杉 田 涉	端 敦 宣	八 木 下 聡	軽 部 守 彦
	しもだて紫水	高 田 昌 明	間 々 田 涼 平	倉 持 悦 子	大 和 田 忠
	筑 西 き ぬ	奈 良 沢 克 也	鈴 木 宇 子	森 久 仁 子	竹 野 信 吾
	石 岡	潮 田 多 計 士	高 橋 恒 士	櫻 井 茂	山 本 進
	土 浦	平 島 隆 之	藤 澤 昭 彦	沼 尻 大	藤 田 雪 絵
7 分 区	土 浦 南	杉 田 一 男	山 口 裕 由	勝 田 達 也	池 田 あ ゆ み (代)
	つくば学 園	高 田 稔 美	五 十 嵐 徹	山 崎 幸 登	大 堀 健 二
	石 岡 8 7	竹 内 盛 恭	大 和 田 寛 樹	廣 瀬 威 雄	村 田 一 晃
	土 浦 中 央	国 分 貢	二 宮 靖 幸	大 峯 浩 之	菊 地 廣 輝
	つくばシ ティ	鈴 木 潤	大 島 茂 久	鈴 木 武 士	金 子 他 喜 男
	阿 見	吉 田 貴 洋	芹 田 幸 夫	吉 田 光 男	佐 藤 勲
8 分 区	つくばサンライズ	雨 宮 淳	伊 賀 秀 文	天 野 貴 志 (代)	森 美 智 子
	竜 ケ 崎	西 村 秀 明	倉 沢 南 州	滝 沢 健 一	
	水 海 道	石 井 康 弘	前 島 聡	武 藤 康 之	北 村 英 明
	取 手	宇 田 川 滋 隆	長 谷 豊	宇 田 川 滋 隆	鴻 巣 智 和
	牛 久	安 藤 修 麻	白 岩 大 樹	川 田 志 津 子	高 橋 研 二
	守 谷	片 桐 武 美	橋 本 秀 明	橋 本 秀 明	橋 本 秀 明
9 分 区	龍 ケ 崎 中 央	大 原 浩 行	川 上 勉	松 本 美 法	横 山 善 英
	鉾 田	田 口 裕 之	重 森 憲 治	円 谷 俊 介	白 川 正 隆
	鹿 島 臨 海	栗 林 豊	佐 藤 雅 史	柳 堀 利 勝	須 田 憲
	玉 造	荒 井 一 美	塙 真 樹	坂 本 俊 彦	茂 木 宏 一
	波 崎	安 藤 寿 博	高 橋 佑 至	遠 藤 貴 之	菅 谷 昭 夫
	鹿 島 中 央	内 田 敬 子	笹 本 辰 男	上 埜 秀 明	佐 藤 敏 近



職業奉仕委員長	社会奉仕委員長	青少年奉仕委員長	国際奉仕委員長	ロータリー財団委員長	米山記念奨学会委員長
村山 貢一	鈴木 裕一	鈴木 茂美	橋本 成	征矢 亘	弓山 智廣
高村 裕	鴨志田 あゆみ	池澤 健	高島 章行	荒川 浩信	荒蒔 義長
鈴木 啓志	和田 昌也	作山 太一	石川 彰信	大河 原浩	今川 隆
石井 栄二	丹 幸一郎	荒川 真吾	篠原 裕治	椿 眞里	柴田 勝則
今野 紀仁	鈴木 崇久	赤津 光司	照沼 明美	太田 秀夫	佐藤 邦裕
根本 甲	能登 英喜	鈴木 哲幸	佐藤 泰博	宇野 貴法	宇野 貴法
大部 友子	瀬谷 淳	有金 重幸	瀬谷 光明	黒羽 豪	笹島 弥一
後藤 敏文	塩原 吉博	篠原 啓一	大森 慎一	多賀野 弘泰	草野 朋子
	松浦 勤	柳下 清一	大藤 博文	松浦 幹夫	
田口 富之	稲見 郷	佐藤 善英	飛田 幸男	関根 富美雄	小野 瀬勝義
村邊 等己	安 富康	川又 保	井上 眞治	大曾 根一穀	村邊 等己
高橋 琢	厚見 和則	大森 龍一	橋本 壽郎	鈴木 正人	島田 智和
塩谷 英和	大谷 啓祐	鈴木 美奈	横須 賀忠行	大曾 根理一郎	西野 信弘
	関 康彦	林 正太郎	岩間 智也	富田 敬子	工藤 勝則
本橋 大蔵	磯 陽介	藪中 裕一	高野 聖也	田中 雄史	稲見 仁史
額賀 修一	野村 貴広	木村 国世	渡邊 忠	田上 悟史	石井 順子
二川 隆司	録田 幸裕	山下 真悟	橋本 哲	藤沼 健二	上野 義哉
寺内 和彦	鈴木 昭夫	小沼 茂文	柴山 博光	小沼 茂文	藤田 芳美
野口 順一	阿久津 正	岩上 征直	岩田 光造	奥 貫守	柳下 文江
安 隆行	坂 亜紀子	木代 竜輔	大根 田ケイ	杉山 武己	小林 一裕
森田 冴子	五十嵐 博	中村 友美	松本 由美子	川上 美智子	山田 眞理子
田村 武敏	福富 浩志一	前田 美代子	小山 仁美	井上 勉	立岡 喜一
	新井 健一				
堀越 哲	染谷 栄	倉持 英雄	染谷 勇	後藤 みちよ	富山 満
須永 恵子	武澤 邦夫	須田 純一	酒井 慎介	小林 好子	小森谷 久美(代)
岡安 利夫	印出 正人	中村 潤	岩本 仁志	斎藤 哲郎	廣澤 まさ子
神山 芳子	永井 啓一	潮田 武彦	新井 和雄	早瀬 浩一	神山 芳子
大木 紘	得能 信人	塗茂 大作	小貫 隆嗣	岩崎 広行	柏 和三
市村 洋	皆川 千代二	重村 秀一	重村 秀一	鈴木 美佐雄	重村 秀一
桜井 裕一	小口 泰永	山内 雄佑	青木 和則	中 嵩 祐慈	江田 治雄
安達 一博	吉野 公輔(副)	滝田 宗浩	大吉 真琴	田中 邦明	古澤 諭
長沢 廣	坂入 久雄	佐藤 信哉	塙 ノバ	大久保 安雄	坂入 功
吉田 敏男	神生 恭利	保延 輝文	久保田 吉文(代)	長谷川 孝夫	中村 浩美
鶴田 一郎	關本 淳一	大塚 芳行	中島 賢一	佐藤 ぱうろ	河合 隆
米山 忠康(代)	片岡 哲	福田 昭一	稲野 邊 穰	伊東 和幸	石神 敦子
赤荻 秀康	久保田 泰隆	飯泉 智弥	村上 義孝	瀬戸 口進	中田 勝也
武居 宏	島田 哲	中村 英一郎	島田 愛彦	島田 愛彦	江橋 修一
緑川 条二	宮本 正	今高 國夫	沼田 浩	澤田 隆之	斉藤 武彦
飯島 洋省	市川 一隆	川畑 清作	大塚 美智夫	小林 保弘	市村 文江
大野 利明	石井 早苗	久保谷 充	中村 孝一	久保谷 充	芹田 幸夫
佐々木 健(代)	田頭 純子	吉尾 香奈子(代)	根本 淳一(代)	尊田 京子	新保 富美子(代)
滝沢 健一(代)	井田 充夫	大竹 雅夫	杉野 訓男(代)	沼野 晃広	杉野 訓男
松崎 隆詞	宮本 明憲	小林 聡司	淀名 和茂彦	鈴木 勝久	青島 弘典
石引 卓	石引 卓	石引 卓	石引 卓	長谷 豊	鴻巣 智和
諸橋 太一郎	中村 康博	小森 聡	池田 正純	手賀 晴夫	根本 清美
遠藤 榮治	片桐 武美	片桐 武美	遠藤 榮治	片桐 武美	遠藤 榮治
信島 貞男	海老原 賢	堀越 祐二	中村レイシエル	大橋 純一	鈴木 夕里子
藤井 正一	高橋 修一	山口 正雄	山崎 英策	渡辺 久似	神代 秀弘
京寶院 恒	藤井 葉子	根本 恵理子	加瀬 正一	福富 庄治	沼田 洋
高須 敏美	阿部 剛	宮内 守	荒井 一美	茂木 宏一	前田 成子
後藤 美紀(代)	才賀 秀樹	藤代 広樹	泉 純一郎	山本 英雄	金子 大作
天海 尉之	赤嶺 昭	長石 博之	野口 武雄	飛田 喜代志	室賀 隆



瀬戸年度地区組織図

28



2025-2026年度 国際ロータリー 第2820地区

瀬戸年度地区組織図

○委員長

クラブ奉仕担当カウンセラー	奉仕P担当カウンセラー	青少年奉仕担当カウンセラー	ローターアクト担当カウンセラー	ロータリー財団担当カウンセラー	米山奨学会担当カウンセラー
大久保博之 (水戸)	高橋 賢吾 (水戸西)	池田 正純 (牛久)	中村 澄夫 (東海那珂)	大野 治夫 (つくば学園)	大高 司郎 (高萩)
クラブ奉仕	職業奉仕	青少年奉仕	ローターアクト	ロータリー財団	米山記念奨学会
総括委員長 井上 誠 (下妻)	総括委員長 安 圭一 (水戸)	総括委員長 宇留野秀一 (水戸南)	総括委員長 塚越 俊祐 (つくば学園)	総括委員長 大野 治夫 (つくば学園)	総括委員長 神山 芳子 (下館)
会員増強		インターアクト		ポリオプラス	米山寄付増進
○熊木 善一 (古河)	中村 潤 (古河中央)	○柴沼 博之 (土浦南)	有金 重幸 (日立中央)	○関 康彦 (水戸)	○草野 朋子 (常陸太田)
片岡 宗厳 (水戸)	征矢 亘 (日立)	石井 秀明 (東海那珂)	横須賀 靖 (水戸)	倉持 悦子 (しもだて紫水)	江田 治雄 (下妻)
新井 誠 (しもだて紫水)	片桐 武美 (守谷)	塙 主税 (水戸西)	楠 英夫 (土浦南)	木村 英博 (つくば学園)	斉藤百合子 (古河)
篠原 純一 (境)	荒野 吉生 (鉾田)	山西 裕 (水戸)	皆葉 真治 (つくば学園)	鐵屋 竜朗 (つくばシティ)	米山学友
衛星クラブ担当 杉山 吉彦 (下館さくら衛星)	社会奉仕	野口 均 (しもだて紫水)	飯田 大樹 (古河中央)	資金管理・推進	○岩田 光造 (水戸東)
リユー クイン ガー (下妻さめま湖畔衛星)	総括委員長 黒木 雅宏 (水戸西)	菅原 光雄 (日立港)	杉山 吉彦 (下館さくら衛星)	秋葉 良孝 (水戸)	張 朔源 (茨城RE)
山田 広美 (下妻さめま湖畔衛星)	研究会担当	青少年並びにライラ	水村 成也 (土浦南 RAC)	八木 健二 (日立)	高野 和彦 (土浦南)
クラブサポート	小野 智久 (日立)	○渡部 俊介 (石岡87)		瀬戸口 進 (つくば学園)	米山選考
○鈴木 敏雄 (古河)	地区補助金担当	鈴木 淑登 (高萩)		補助金担当	○佐谷 道造 (古河東)
和泉 好一 (土浦南)	根本 ひろ美 (水戸東)	広瀬 貴之 (つくば学園)		○菊池 泰正 (土浦)	藤澤 昭彦 (土浦)
緒方 惟文 (水戸東)	奉仕事業担当	石塚 徹 (水海道)		地区補助金担当	中山 眞矢 (水戸西)
公共イメージ・ICT推進	関本 淳一 (土浦)	青少年交換		○椿 眞里 (北茨城)	前田 成子 (玉造)
○林 正太郎 (水戸)	国際奉仕	○軽部 守彦 (下妻)		申請	
滝 徳宗 (高萩)	総括委員長 村上 義孝 (つくば学園)	飯泉 智弥 (つくば学園)		清藤 豊 (水戸東)	
松野 祐介 (水戸さくら)	WCS・グローバル補助金担当	中庭 浩実 (水戸南)		申請補	
山崎 哲男 (水海道)	国際交流奨学金担当	藤木 章吉 (しもだて紫水)		池田 一郎 (つくば学園)	
富岡 致知 (下妻)	松本 幸子 (古河東)			グローバル補助金担当	
	国際交流共同担当			○尊田 京子 (つくばサンライズ)	
	フィリピン担当			人道支援	
	柴山 博光 (友部)			中野 勝 (つくば学園)	
	タイ担当			奨学金・学友	
	録田 幸裕 (水戸南)			田上 悟史 (水戸西)	
	ネパール担当			VTT担当	
	中島 賢一 (土浦)			岡村 太郎 (水戸南)	
				ロータリー平和フェロシップ	
				○木村 英博 (つくば学園)	
				ロータリーカード推進	
				○白岩 大樹 (牛久)	

UNITE FOR GOOD

[illegible]



地区研修・協議会出席報告

御 芳 名

所属クラブ

RC

職 業 分 類

地区研修・協議会にご出席くださいますようお願いございました

2025 年 4 月 13 日（日）

於：つくば国際会議場

国際ロータリー第2820地区

地区幹事 **青木 正弘**



国際ロータリー第2820地区 ガバナー事務所

〒303-0023

茨城県常総市水海道宝町 3386 釜久ビル 3F

TEL : 0297-21-3655

Fax : 0297-21-3654

E-mail 25-26@rid2820.jp